

11/23、自然保護観察会・和泉葛城山・報告

記：自然保護・澤村

講師：田中正視 大阪府自然環境保全指導員（元高校理科教師）

参加者：八尾・5人、豊中・4人、泉州・3人、雑木・2人 計・14人+先生

田中先生のお話は、予想通り、草花の紹介だけではなく、関連する話題をふんだんに織り交ぜたいへん楽しいものでした。下記は、参加者の感想文を参考にまとめました。

●和泉葛城山のブナ林は、日本で第1号に国の天然記念物に指定されたものでかなり価値がある。

朝ドラ・らんまん：牧野富太郎に懇願したようです。

ブナを保全するために様々な方が関わりいろいろな取り組みをしていることが分かった。ブナ1本1本に番号が付けられ、巡視管理が行われ、天然記念物（コアゾーン）の周辺森林（バッファゾーン）を含む保全、ブナ林の保護と増殖のための調査活動などである。近年では、努力なしでは森林は守れないということである。そんな人々の努力を台無しにしたのが2017年、樹齢300年この辺りでは最古のブナの大木の伐採である。それも天然記念物であるブナを、文化庁の許可なく、、、ひどい話である。

Yahoo 記事：和泉葛城山ブナ伐採、朝日新聞をご覧ください。

ぶなは、高さ20cmまで育つのに約20年、1mほどになるには約40年要する

ぶな⇔シデの樹皮の違い。シデは縦模様、ぶなは地衣類（細菌みたいなもの）が共生している。

ぶな⇔ミズナラの葉っぱの違い。即脈の先端は葉のふちの谷にいたる。 図-①をご覧ください。

●タラヨウ(多羅葉)は「はがきの葉」言い、葉の裏を爪楊枝でひっかくと黒くなるので文字が書ける。

切手を貼り住所を書くと自宅に届いた、とのこと。 写真-①をご覧ください。

●リスのお話。松ぼっくりの鱗片の根元に小さな黒い種が2つあって、それをリスが食べる。食べた後エビのしっぽと言う。 写真-②をご覧ください。

●笹の葉っぱの裏はモフモフ、寒さから守るためだって。

●山頂近くにカメラを設置すると、しかが写っていた、とのこと。今は冒険者がひとり和泉の山にやってくるがそのうち、兄弟たちもやってくるのでは？これは心配。

●この泉州あたりの地質や地形の話があってびっくりした。大阪北部より新しい中生代から白亜紀の地質で、海から押されて隆起し、雨風でけずられたので、和歌山川は急斜面で谷が深いそうです。

●宿の谷の上部の明るい斜面はニリンソウの宝庫。

図 - ① 即脈が違う

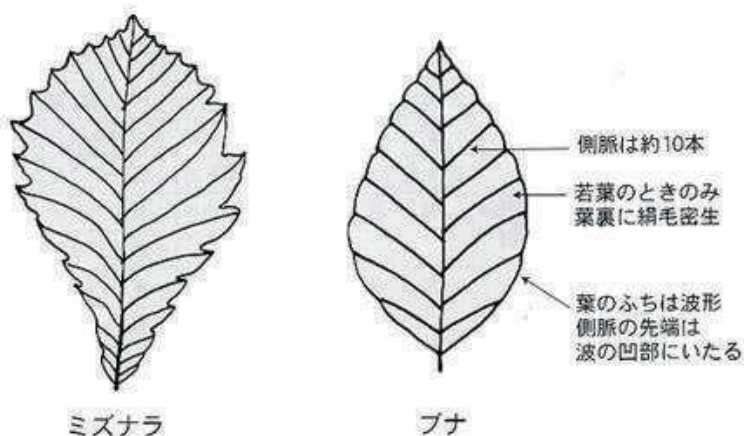


写真 - ① 「はがきの葉」

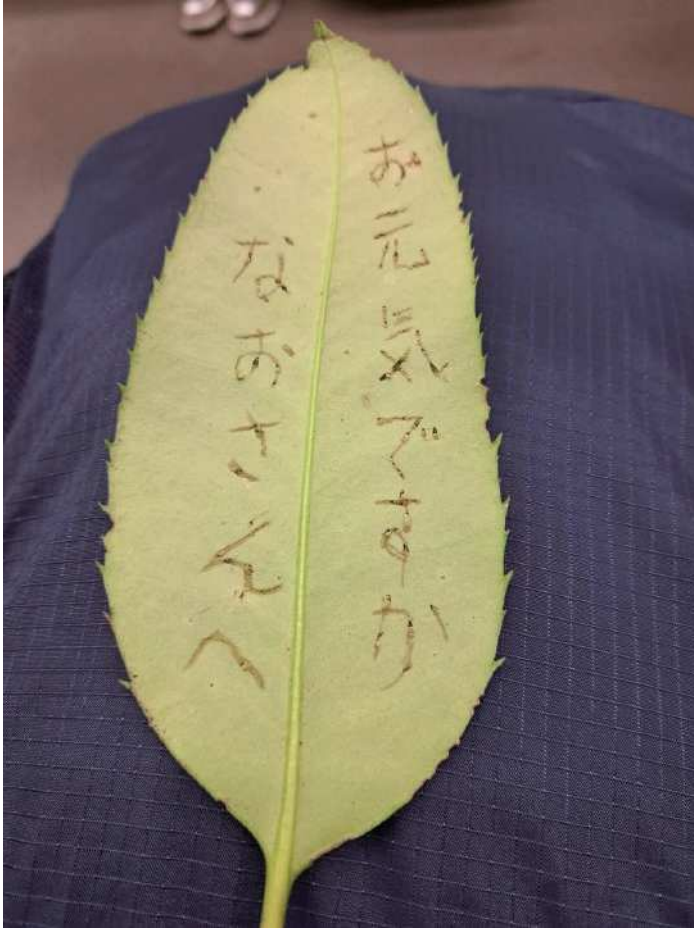


写真 - ② エビのしっぽ

